

優しく強い子に！



http://www.minamih.net/ 15・7・12(日) 南NEWS NO29

先週土曜日は南の3期生・加藤君の結婚式でした。私は久しぶりに泣いてしまいました。お二人のプロフィールを紹介する映像で、南のユニホーム姿でプレーする加藤君の姿が大写しになり、365日サッカーとコメントが添えてありました。子どもにサッカーをさせるそうです。これから夫婦二人で都市近郊の小比企町で農業に生きる加藤君。優しく誠実で努力家だった加藤君に期待しています。人と自然に優しい農業、国の本を成す農業の後継者として力を尽くしてほしいと願っています。

小比企には農業に携わっている私の教え子が3人います。そのうちの一人、中西君とは「八王子の森林と里山を活かす農業・暮らしを創造していこうよ」と話しました。南OBの小坂君・加藤君にもぜひ力を貸してもらい、実現させてほしいです。葉山の仲間達も取り組みを始めています。

7月18日(土)の講演会にぜひ出席を

また大変痛ましい、いじめによる事案が発生しました。中二の男子が担任の先生に書いた先生へのメッセージ……。それに対する担任の対応、人権意識の希薄さ、考えられません。それで通用する学校の危機管理体制を作っていた管理職の怠慢、考えられません。

7月18日(土)の14:00~16:00の橋詰弁護士の子どもの権利・いじめの講演会 由井三小図書室 があります。添付資料をご覧ください。

南主催で図書室を借りて講演会を実施するので、由井三の保護者の方にも呼びかけはどうですかと学校運営協議会の席で矢上が話を進めたのです。

お子さんのため試合のない学年は是非とも出席してください。1・2年と5・6年の保護者の方は出席してください。3・4年の保護者でも試合の応援に行かず、時間のある方はぜひ出席してください。

コーチのみなさんも是非出席してください。

2015・7・9朝日新聞夕刊

かぞくの肖像 KAZOKUNO SHOZO

君の命も未来も守る

うちの猫は歴代、家に寄りつく野良猫からお気に入りまで選んで、家の中で遊ばせて。野良猫は自らの意思で私の家に入る。そこが好き。1991年に東京都内のいまの自宅に引っ越すと、次々と野良猫が来た。「この家は猫好き」ってわかるんだね。お気に入りにはチビクロって名付けた6歳ぐらゐのメスで、6年前からのつきあい。自己PRがとにかくうまい。腹はいいになったポーズは「背中をなでろ」。ドアを開ける、腹減ったとねだってくる。スズメやトカゲをくわえてくるのは、プレゼントのつもりかな。わがままだけど、私の書斎がある階には決して上がってこない。自分の領分じゃないってわきまえてる。一緒に遊ぶと執筆の疲



作家 森村 誠一さん ちビクロ(推定6歳)

れも吹っ飛びますよ。猫と森村家には悲しい話がある。45年 終戦の前日の8月14日深夜、日本最後の空襲といわれる熊谷空襲(埼玉県)があつて、当時12歳の私は逃げ惑った。コソという飼猫を見失った。「コソがいない」と火の海へ戻ろうとする妹を、おやじが鬼のような顔をして引きずりながら逃げた。翌日、コソを探して自宅近くに行くと、川が遺体で埋まっていた。煙に巻かれたようで、生きていた。煙に巻かれたように、生きていた。煙に巻かれたように、生きていた。煙に巻かれたように、生きていた。

□もりむら・せいいち 1933年生まれ。埼玉県熊谷市出身。社会派ミステリーで知られる。代表作に「人間の証明」「悪魔の飽食」など。「猫型の宇宙」など猫が登場する作品も多数。 ■チビクロはとっては人見知り。森村夫妻以外では、逃げ出してしまふ。写真は森村さん提供。

百田さんが嫌っている朝日新聞の切り抜きです。森村誠一さんの「人間の証明」「悪魔の飽食」どちらも読みました。好きな作家の一人です。

悪魔の飽食の舞台になった中国東北部ハルビン郊外の平房で行われていた731部隊の研究所跡を見学したことがあります。ボイラー室の大きな2本の煙突は当時のままでした。

橋詰君達6年生を担当していたときです。25年前の夏休み、1931年の満州事変から始まる15年戦争を2学期に教えるときのために、日野社会教育センター主催の「日中現代史を学ぶ旅12日間」に参加したときのことです。事前に森村さんの本を読んでいたのもとても重い学びの日でした。手を合わせながらの見学でした。

山崎豊子さんの中国残留孤児の物語「大地の子」も読んでいたので、中国の駅の雑踏を“この中を残留孤児の人が歩いているかもしれないな”と感慨に耽りながら歩いていたらツアーからはぐれそうになったこともありました。 矢上

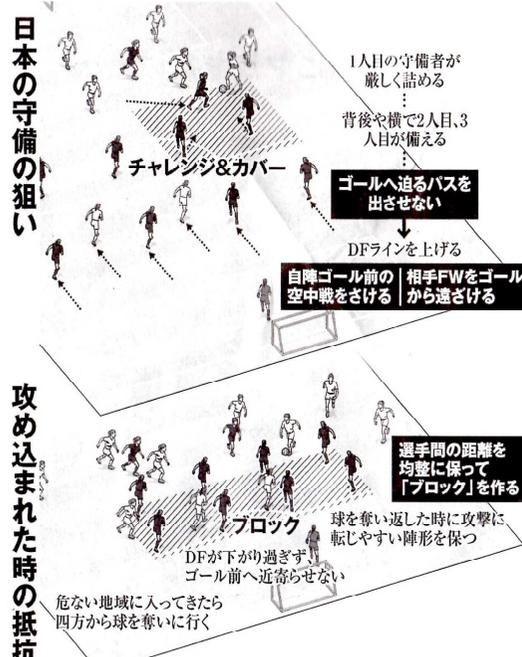
守り抜け

サッカー 女子W杯 なでしこあす決勝

米の攻撃柔軟にしのげるか

日本(世界ランキング4位)は5日(日本時間6日午前8時)の決勝で米国(同2位)と対戦する。攻撃力のある米国相手に、日本は守備に迫られる時間が長くなりそうだ。状況に応じた守り方ができるかが、勝負を分ける鍵になる。

米國はこれまでの6試合で9得点1失点。ボール扱いが巧みなロイド、ラビノの両MFを中心に短いパスをつなぐ速攻と、速さのあるFWモウガンを生かした速攻を使い分けている。常に主導権を握って戦えていることで守備の時間が減り、5試合連続無失点にもつながっている。米國は何でもできる。防べないDFは、DFラインを上げて、相手FWをゴール前から遠ざける。DFラインを上げて、相手FWをゴール前から遠ざける。DFラインを上げて、相手FWをゴール前から遠ざける。



頭15分間は、ウォーミングアップやパス練習